

第12節 特別活動

第1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

本資料は、改訂された中学校学習指導要領の特別活動の目標及び各活動、学校行事の目標の実現を目指した指導計画及び評価計画作成のための資料となるように作成したものである。そのために、学習指導要領及び埼玉県中学校教育課程編成要領の趣旨を踏まえて具現化するように努めた。

作成に当たっては、具体的な事例を取り上げながら、特別活動における重要な三つの視点や育成を目指す資質・能力を踏まえた指導の在り方や評価方法、評価規準例を示した。

2 取り上げた内容

第1 本資料の活用について

第2 特別活動における指導と評価

- 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について
- 2 主体的・対話的で深い学びについて
- 3 観点別学習状況の評価の観点について

- (1) 特別活動における評価の考え方、留意点及び方法
- (2) 特別活動の「評価の観点」とその趣旨、並びに「内容のまとめりごとの評価規準」作成の基本的な考え方

第3 各活動・学校行事の指導と評価の計画及び改善

- 1 学級活動(1)の指導と評価
- 2 学級活動(2)、学級活動(3)の指導と評価
- 3 生徒会活動の指導と評価
- 4 学校行事の指導と評価

第4 本時の指導計画例と評価及び改善の考え方

- 1 学級活動「(1) 学級や学校の生活づくり」の指導計画例
- 2 学級活動「(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の指導計画例
- 3 学級活動「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」の指導計画例

第5 特別活動の指導・評価と児童指導要録

- 1 特別活動における指導・評価
- 2 指導と評価の充実のための資料の収集
- 3 評価補助簿の活用と生徒指導要録の評価欄における記入について
- 4 特別活動の指導・評価とキャリア・パスポートの活用

編成要領(P186)で示された「指導計画作成に当たっての留意すべき事項」との関連についても本資料で示していく。

- (1)「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点
- (2)「主体的・対話的で深い学び」の視点
- (3)「教科等横断的」な視点
- (4)「社会に開かれた教育課程」の視点
- (5)「道徳教育の充実」の視点
- (6)内容の取扱いについての配慮事項

3 本資料の活用にあたって配慮すること

各学校は、学校の創意工夫を生かし、学校や地域の実態、生徒の発達の段階などを考慮するとともに、各教科等の指導との関連を図りながら、特別活動の各内容の特質を生かした指導計画及び評価計画を作成し、生徒の自主的、実践的な活動が助長されるようにすることが大切である。

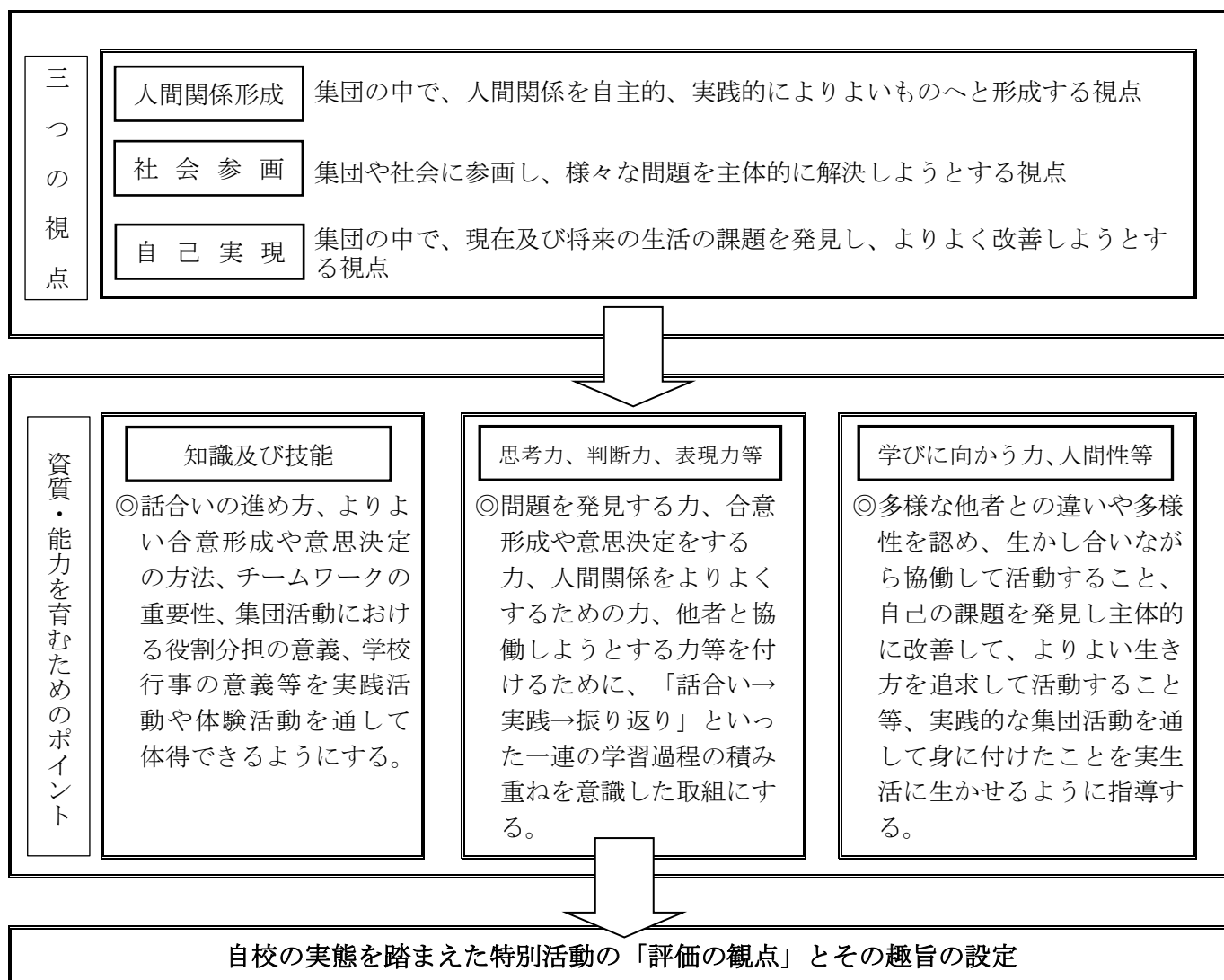
4 学力・学習状況調査の活用（埼玉県学力・学習状況調査等の分析結果から見られた特別活動の効果）

埼玉県学力・学習状況調査の分析結果から、学級経営の充実が学力向上につながるということが明らかになった。特別活動は、学級活動を通して学級経営の充実を図り、学びに向かう集団の基盤を形成する。主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を行う上で、特別活動の果たす役割は大きい。多様な集団活動を通してよりよい人間関係を築くことが、生徒が安心して学習することのできる受容的な雰囲気醸成し、学力向上にもつながっていく。

第2 特別活動における学習指導と評価

1 「育成を目指す資質・能力の三つの柱」について

特別活動では、指導する上での重要な視点として「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」を手掛かりとしながら、育成を目指す資質・能力や学習過程を整理した。また、評価の視点については、育成を目指す資質・能力の三つの柱や自校の実態を踏まえて、各学校で設定していくことになる。



2 「主体的・対話的で深い学び」について

特別活動における「主体的・対話的で深い学び」の実現は、各活動・学校行事の学習過程において、授業や指導の工夫改善を行うことで、一連の活動過程の中での質の高い学びを実現することである。それは、特別活動の各活動・学校行事の内容をよく理解し、それぞれを通して資質・能力を身に付け、中学校卒業後も能動的に学び続けるようにすることでもある。

具体的には、学級や学校における諸問題や自己の生き方に関する課題を見いだしたり、解決方法を決めて自主的に実践したり、取組を振り返って、よい点や改善点に気付いたりして次の活動に生かしていくことができるような学習過程を大切にすることが、「主体的な学び」の実現につながる。また、課題を解決するために合意形成を図ったり、意思決定したりする中で、話合いを通して他者の様々な意見に触れ、自分の考えを広げたり、多面的・多角的に考えたりすることが、「対話的な学び」の実現につながる。さらに、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせて、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画、自己の実現に向けた実践に結び付けることが、「深い学び」の実現につながる。

3 指導及び評価計画作成のための考え方及び方法

3-1 特別活動における指導・評価の考え方

特別活動の評価においては、「集団活動」「自主的、実践的活動」「全ての教師が関わる活動」である特別活動の特質を踏まえることが大切である。生徒一人一人の活動の中に見られるよい点や進歩の状況を積極的に評価するとともに、評価を通して教師が指導の過程や方法について振り返り、より効果的な指導につながるよう工夫改善を図っていくことが大切である。

3-2 指導と評価に当たっての留意点

3-2-1 指導・評価体制の確立

特別活動では、全校または学年を単位として行う活動があり、学級担任以外の教師が指導することも多い。したがって、各学校で「十分満足できる活動の状況」とは、どのような姿なのか共通理解を図ることが求められる。積極的に生徒一人一人のよさや可能性を認め、指導に生かすよう学校としての評価体制を確立することが大切である。

3-2-2 指導と評価の計画の作成

各学校においては、各活動・学校行事ごとに指導と評価を適切に位置付けた計画を作成することが大切である。なお、1単位時間の指導計画においては、各活動・学校行事ごとに学校で設定した評価規準に即して「目指す生徒の姿」を記載する。教師の指導計画や生徒の活動計画については、以下の視点で評価し、見直しを図っていくことが大切である。

- 全体計画や年間指導計画が、各活動及び学校行事のねらいの達成につながっている。
- 学校や学年の実態や生徒の発達の段階が考慮されている。
- 生徒の自主的、実践的な活動が助長されている。
- 各教科、総合的な学習の時間などとの関連が図られている。
- 家庭や地域との連携、社会教育施設などの活用が図られている。

3-2-3 多面的、総合的な評価

活動の成果だけでなく、活動の過程における生徒の努力や意欲、進歩の状況などを積極的に認め、生徒のよさや可能性を多面的・総合的に評価することが大切である。また、学習活動における生徒自身の自己評価や生徒間の相互評価を参考にすることも考えられる。その際、生徒の評価をそのまま教師の評価とすることがないよう配慮する。

3-3 評価の進め方と方法

特別活動の評価は、教師による観察法が中心となるが、チェックリストや生徒自身の各種記録を活用することも考えられる。また、評価には客観性が求められることから、一部の教師の主観による評価とならないよう評価を蓄積することが必要である。その際、以下の視点を参考に、教師による観察、生徒自身の自己評価、生徒間の相互評価、教師相互の話し合いなど一層の工夫改善をすることが求められる。

- 評価の目的と対象の特定(何のために、何を評価するのか)
- 評価の方法と場面の設定(どのような方法、場面で評価するのか)
- 評価の実施者と実施時期(だれが、いつ評価するのか)
- 評価の結果の解釈と活用(どのように分析し、指導に役立てるのか)

3-4 特別活動の「評価の観点」とその趣旨、並びに「内容のまとめりごとの評価規準」作成の基本的な考え方

特別活動においては、特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく、各学校が評価の観点を定めることとしている。本章では、各学校において特別活動の観点とその趣旨、並びに評価規準を作成する際の参考となるよう、「評価の観点」とその趣旨並びに「内容のまとめりごとの評価規準」の作成の手順を示す。

基本的な手順として、まず学習指導要領の特別活動の目標及び各学校の実態を踏まえて、特別活動の「評価の観点」を設定する。次に「内容のまとめりごとの評価規準」は、学習指導要領の「特別活動の目標」と改善等通知を踏まえ、特別活動の特質に応じた形で作成する。

【「内容のまとめりごとの評価規準」作成の基本的な手順】

① 学習指導要領の「特別活動の目標」と改善等通知を確認する。

改善等通知では、次のように示されている。

(前略) 評価の観点については、中学校学習指導要領等に示す特別活動の目標を踏まえ、各学校において別紙4を参考に定める。その際、特別活動の特質や学校として重点化した内容を踏まえ、例えば「主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度」などのように、より具体的に定めることも考えられる。(後略)

② 学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、改善等通知の例示を参考に、特別活動の「評価の観点」とその趣旨を設定する。

③ 学習指導要領の「各活動・学校行事の目標」及び学習指導要領解説で例示した「各活動・学校行事における育成を目指す資質・能力」を参考に、各学校において育成を目指す資質・能力を重点化して設定する。

④ 観点ごとのポイントを踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

なお、中学校特別活動における内容のまとめりとは、以下のとおりである。

学級活動・・・(1)学級や学校における生活づくりへの参画

(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

(3)一人一人のキャリア形成と自己実現

生徒会活動

学校行事・・・(1)儀式的行事、(2)文化的行事、(3)健康安全・体育的行事、

(4)旅行・集団宿泊的行事、(5)勤労生産・奉仕的行事

※ 生徒会活動については、「(1)生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営、(2)学校行事への協力、(3)ボランティア活動などの社会参画」を全て含めて「内容のまとめり」としている。

各学校においては、特別活動の目標及び内容を踏まえ、自校の実態に即して、次に示す観点を参考に評価の観点を作成する。例のように、特別活動の特質や重点化した内容を踏まえて観点を作成することも考えられる。

【特別活動における「評価の観点」及びその趣旨を基にした例】

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自己実現に必要な情報及び方法を理解している。 よりよい生活を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

【特別活動における資質・能力の視点（「人間関係形成」）をもとに重点化を図った例】

互いのよさを生かす関係をつくるための知識・技能	協働してよりよい生活を築くための思考・判断・表現	主体的に多様な他者と関係をつくろうとする態度
個人と集団との関係性及び集団活動の意義を理解し、社会生活におけるきまりやマナーに則った行動の仕方を身に付けている。	様々な場面で、自分と異なる考えや立場にある他者を尊重して認め合い、支え合ったり補い合ったりして協働している。	様々な集団に積極的に所属し、他者の価値観や個性を受け入れ、新たな環境のもとで互いの可能性を発揮できる関係を築こうとしている。

【特別活動における資質・能力の視点（「社会参画」）を基に重点化を図った例】

集団の一員として活動するために必要な知識・技能	集団や社会をよりよくするための思考・判断・表現	よりよい社会の形成に向けて主体的に自己を生かす態度
学級・学校集団や社会生活の中で他者と協力して役割を果たすことの意義を理解し、そのための話し合いの進め方を身に付けている。	学級や学校、社会生活の充実・向上のために課題を発見し、集団としての解決方法を合意形成したり、個人としての実践目標を意思決定したりしている。	現在及び将来の自己の活動や役割を振り返ることで、成長や課題を認識し、これからの集団生活の改善に生かそうとしている。

【特別活動における資質・能力の視点（「自己実現」）を基に重点化を図った例】

将来の自己と学びを結びつけるために必要な知識・技能	自己の生活課題を改善するための思考・判断・表現	主体的に人間としての生き方を選択しようとする態度
将来の社会的・職業的な自立と現在の学習とのつながりを理解し、自己の生活をよりよくするために個性を活かす方法を身に付けている。	集団の中で、個々人が共通して直面する現在及び将来に関わる課題を発見するとともに、必要な情報を収集・整理して考察し、解決に向けて意思決定している。	日常の生活や自己の在り方を自主的に改善するとともに、将来を思い描き、自分らしい生き方を主体的に選択しようとしている。

中学校特別活動における「内容のまとめりごとの評価規準（例）」

【学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」の評価規準（例）】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。 合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。	学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだしている。 課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。	学級や学校における人間関係を形成し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとしている。

【学級活動「(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の評価規準（例）】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解している。 適切な意思決定を行い実践し続けていくために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の生活や学習への適応及び自己の成長に関する課題を見いだしている。 多様な意見をもとに自ら意思決定して実践している。	他者への尊重と思いやりを深めてよりよい人間関係を形成しようとしている。 他者と協働して自己の生活上の課題解決に向けて、見通しをもったり振り返ったりしながら、悩みや葛藤を乗り越え取り組もうとしている。 自他の健康で安全な生活を構築しようとしている。

【学級活動「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」の評価規準（例）】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義を理解している。 現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考え、自分らしい生き方の実現を図るために、必要な知識及び技能を身に付けている。	自分らしい生き方の実現に向け、現在の学習や将来の進路についての課題を見いだしている。 主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献すること、自己の将来について、適切な情報を収集して考え、意思決定して実践している。	将来の生き方を見通したり、現在の生活や学習を振り返ったりしようとしている。 働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己実現を図ろうとしている。

【生徒会活動の評価規準（例）】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
生徒会やその中に置かれる委員会などの異年齢により構成される自治的組織における活動の意義について理解している。 全校の生徒をもって組織する大きな集団での活動のために必要なことを理解し行動の仕方を身に付けている。	生徒会において、学校全体の生活をよりよくするための課題を見いだしている。 全校の生徒をもって組織する大きな集団における課題解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく形成したりしている。	自治的な集団における活動を通して身に付けたことを生かして、多様な他者と協働し、学校や地域社会における生活改善を図ろうとしている。 3年間や全校という視野で見通しをもったり振り返ったりしながら、よりよい生活を築こうとしている。

【学校行事(1)儀式的行事の評価規準（例）】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
儀式的行事の意義や、その場にふさわしい参加の仕方について理解している。 規律や気品のある行動の仕方などを身に付けている。	学校生活の節目の場において先を見通したり、これまでの生活を振り返ったりしながら、新たな生活への自覚を高め、気品ある行動をしている。	厳粛で清新な気分を味わい、行事を節目として、見通しをもったり振り返ったりしながら、新たな生活への希望や意欲につなげようとしている。

【学校行事(2)文化的行事の評価規準（例）】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
美しいものや優れたものを創り出し、自ら発表し合ったり、芸術的なものや伝統文化を鑑賞したりする活動に必要な知識や技能を身に付けている。	日頃の学習活動の成果発表や芸術、伝統文化に触れ、個性を認め、互いに高め合いながら実践している。	文化的な視点から自己の成長を見通したり、振り返ったりしながら、自己を一層伸長させようとしている。

【学校行事(3)健康安全・体育的行事の評価規準（例）】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等の非常時から安全に身を守ることの意義を理解し、必要な行動の仕方などを身に付けている。 体育的な集団活動の意義を理解し、規律ある集団行動の仕方などを身に付けている。	自他の健康や安全について他者と協力して、適切に判断し実践している。 運動することのよさについて考え、集団で協力して取り組んでいる。	運動に親しみ、体力の向上に積極的に取り組もうとしている。見通しをもったり振り返ったりしながら、健康安全・体育的行事に積極的に取り組もうとしている。

【学校行事(4)旅行・集団宿泊的行事の評価規準（例）】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
豊かな自然や文化・社会に親しむことの意義を理解している。 校外における集団生活の在り方、公衆道徳などについて理解し、必要な行動の仕方を身に付けている。	旅行・集団宿泊的行事において学校生活や学習活動の成果を活用できるように考えて実践している。	日常とは異なる環境や集団生活において、自然や文化、社会に親しみ、見通しをもったり振り返ったりしながら、新たな視点から学校生活や学習活動の意義を考えようとしている。

【学校行事(5)勤労生産・奉仕的行事の評価規準（例）】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
働くことの意義、社会的・職業的な自立について理解している。 ボランティア活動などの体験活動の仕方が身に付いている。	勤労生産や奉仕に関して自分のできることを判断し実践している。 多様な他者と協力してボランティア活動に取り組んでいる。	勤労観や職業観を深め進んで体験的な活動をしようとしている。見通しをもったり振り返ったりしながら、社会奉仕の精神を養い、社会に貢献しようとしている。

第3 各活動・学校行事の指導と評価の計画及び改善

1 学級活動(1)の指導と評価

学級活動(1)は、学級や学校における生活上の諸問題の解決や主体的な組織づくり、生徒会活動や学校行事等における学級としての提案や取組などについて話し合い、合意形成を図り、実践する自発的、自治的な活動である。

【話し合い活動】

学級活動(1)でのいわゆる学級会による話し合い活動は、特別活動における自発的、自治的な活動の中心となるものである。小学校での話し合い活動の経験を十分生かせるよう、学級活動委員の役割を明確にすることが大切である。特に、中学校入学当初においては、生徒が新しい学校生活に期待感を膨らませることができるよう配慮することが大切である。

【学級活動委員会の指導上の留意点】

よりよい話し合い活動の実現のためには、学級活動委員会における教師の指導や助言が大切である。年度当初にオリエンテーション等を行ったうえで、実態を踏まえた指導を心掛ける。

○学級活動委員会の構成（小学校では「計画委員会」と呼ばれる）

輪番制の司会グループ4～5名（例：司会2名、黒板記録2名、ノート記録1名）

○議題選定のポイント

【指導計画例】の＜選定の視点＞を踏まえ、望ましい議題の在り方について指導する。

【指導計画例】

過程	活動	目安	○学級活動委員の活動 ●全員の活動	指導上の留意点
事前	議題の収集	2週間前	●学級の諸問題に気づき、議題カードを書いて提案する。 例：「教室内の掲示の仕方を決めよう（4月）」（学級生活の向上） 「1学期のまとめの会をしよう（7月）」（集団活動） 「音楽会に向け学級の取組を決めよう（9月）」（学校行事関係） 「カウントダウンカレンダーを作ろう（1月）」（全員で作成）	・定着するまでは、帰りの会等の中で、議題を考えて記入する時間を設けることも考えられる。その後は、議題ポスト等、自由に提案できる環境づくりに努める。 ・教師の例示や日常の生徒からのつぶやきを議題として提案するよう助言するなどの意図的な工夫をする。
		議題選定	○提案された議題を整理し、望ましい議題をいくつか選定して学級全員に伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">＜選定の視点＞ ・生徒にとって切実感や必要感があるか ・学級の生活がよくなるものか ・自分たちの力で解決できるか</div> ●全員で議題を決定する。	・生徒に任せることができない（自治的活動の範囲を超える）条件に留意する。 ・候補に挙がりながらも、取り上げられなかった提案について、学級活動委員会で話し合い、配慮をもって提案者へ伝える。
		計画	○当日の話し合い活動の具体的な計画を立てる。 ○学級活動コーナーに議題や提案理由等の情報を明示する。 ●自分の考えを学級活動ノートに書いておく。（帰りの会等） ○議題に応じて必要な資料を作成し、用意しておく。	・「決まっていること」の事前周知等、当日の話し合いが円滑に進められるよう、必要な準備について助言する。 ・議題により、話し合うこと①「何をするか」などを事前に話し合い、共有化しておくことも考えられる。
本時	話し合い	当日	第○会 学級会 議題「○○○○○○」 ○立てた計画に沿って会議の進行に努める。 ●互いの意見を尊重し、生かし合う中で合意形成を目指す。 ●「決まったこと」を全員が明確に共通理解する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">P302 指導計画作成の留意事項(1)</div>	・生徒の主体性を尊重しつつ必要に応じて助言を加える。 ・話し合いの方向性に誤りを感じるような場合には、提案理由や話し合いのめあてを再確認するように促す。 ・話し合い活動のグッズを効果的に使い、思考の可視化、操作化、構造化が深まるように支援する。 ・十分満足できる活動の状況を見取るため、具体的な生徒の姿を想定しておく。
事後	準備実践		●話し合いで決まったことについて準備を進める。 ●実践をする。 ●「事前－本時－事後」の一連の活動全体の振り返りをする。 ○議題に応じて掲示物等を作成し実践の成果を可視化する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">P302 指導計画作成の留意事項(5)</div>	・全員が役割を担い、協力して実践できるようにする。 ・生徒一人一人の振り返りを全員で共有できる環境づくりに努め、全員で話し合い、実践するよさを共有する。 ・次の活動への意欲化を図る。 ・学級活動ノートや実践の様子から生徒一人一人及び集団の成長等の変容を適切に評価し指導の改善につなげる。

※話し合いが、自治的活動の範囲を超えてしまいそうな際には適切な助言に努める。（以下、内容例）

- ・個人情報やプライバシーに関わる
- ・相手を傷付ける結果が予想される
- ・金銭徴収に関わる
- ・校則や施設・設備の管理に関わる
- ・教育課程の変更に関わる
- ・健康や安全に関わる
- 等

【話し合い活動を行う上でのポイント（いわゆる5W1Hを明確にする）】

- ◎Why「なぜ」…提案理由（話し合いのよりどころ）
- ◎When「いつ」・Where「どこで」…決まっていること（教師が決める）
 - 話し合うこと① What「何をするのか」（内容）
 - 話し合うこと② How「どのようにするのか」（工夫、ルール等）
 - 話し合うこと③ Who「誰がやるか」（役割分担）

「どのようにするのか」を話し合いの中心に据え、生徒の創意工夫を生かすことは、話し合いがより深まることにつながると思われる。

【よりよい合意形成に至るためのポイント】

話し合いの後に、生徒一人一人が意欲をもって実践に向かえるような、よりよい合意形成に至るためには、次の三つのポイントに基づき、多様な方法を用いて進めるようにする。その際、学級活動委員会を中心に生徒が主体的に進行できるよう、進め方のマニュアル等の活用も考えられる。

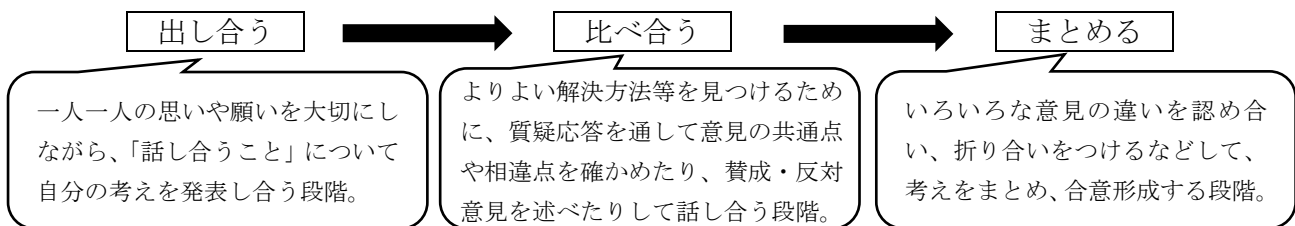
P302 指導計画作成の留意事項(5)

<p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ○互いの意見を理解し合う。（共感的に理解） ○何が違うのかを明確にする。 （理由を明確にして比較） ○見方を変える。（視点を変えて比較） 	<p><考えられる具体的な方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ○新しい考えをつくる ○優先順位を決める ○少数意見を大切にする ○共感的に理解し、譲る ○意見を合わせる ○付け足しをする ○条件を付ける
--	---

Why（提案理由）に立ち返って考えていくことは、どの場面でも大切になる。

【話し合い活動の進め方】

円滑な話し合いのためには、話し合うこと①～③それぞれにおいて、次の3段階で進めるとよい。



【学級活動(1)の実践例】

内容ア～ウについて、生徒の発意・発想による議題に基づいて話し合い、実践に至るまでの一連の活動を通して、生徒一人一人の自治的能力を高めていくことが重要である。特に、第1学年においては、小学校での学級会や係活動、集会活動の経験を踏まえて進めることも大切である。

ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

学級や学校における生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践する活動である。

- <活動例> ・出会いの会 ・○学期のまとめの会 ・思い出○○作り ・学級の歩み作り

イ 学級内の組織づくりや役割の自覚

学級生活の充実や向上のため、生徒が主体的に組織をつくり、役割を自覚しながら仕事を分担して、協力し合い実践する活動である。

係活動と当番活動の特質の違いに留意する。

- <活動例> ・年度当初の係活動を決める活動 ・後期に向けて係や組織を見直す活動

ウ 学校における多様な集団の生活の向上

生徒会など学級の枠を超えた多様な集団における活動や、学校行事を通して学校生活の向上を図るため、学級としての提案や取組を話し合って決める活動である。

- <活動例> ・△組いじめ撲滅宣言 ・△組あいさつ向上作戦 ・音楽会縦割り合唱交流会

【学級活動(1)の実践上の留意事項】

P302 指導計画作成の留意事項(5)

- ・活動が1年間を通して偏りなく、多様な活動によってバランスよく行われるようにする。
- ・話し合いのための話し合い活動ではなく、実践を生み出すための話し合い活動になるようにする。
- ・一連の活動を通し、計画の立案や運営方法、協力や責任などについて体得できるようにする。
- ・一連の活動全体について振り返り、次の活動の充実につながるようにする。

2 学級活動(2)、学級活動(3)の指導と評価

学級活動(2)は、現在の自分の課題を見つめ、自己の成長のために、自分に合った具体的な解決方法や目標を意思決定し、主体的に実行することができるように自己指導能力を育てる。また、学級活動(3)は、現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標や具体的な方法を意思決定し、なりたい自分を目指すことができるような自己実現を図る力を育成する。課題に違いはあるが、学習過程は同じである。

【指導計画例】

	●教師の指導 ○生徒の活動	指導上の留意点
事前の指導	●題材を設定する。 年間指導計画や生徒の実態に合わせて、個々の生徒が共通に解決すべき問題として「題材」を設定する。 ○問題を発見・確認する。 題材について知り、アンケートに回答したり自分の現状について考えたりする。	<ul style="list-style-type: none"> 何が問題なのか、問題はどの程度なのか、どの問題を取り上げるかを明確にする。 事前に題材を提示することで、問題意識を高めるようにする。 アンケートの内容は、指導内容をもとに教師が意図的に項目を設定し、必要に応じて自由記述を設定する。 問題の原因や背景を明らかにする。 題材によっては、生徒と共に学級の実態調査や資料作りに取り組むことも考えられる。
本時の指導	●学級全員の共通の問題であることを押さえる。 ○解決方法等について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 学級全体としての共通の問題を把握できるようにする。 アンケート結果等から、学習することの意義に気づき、課題を明確にできるようにする。 アンケート結果を提示したり、インタビュー動画を視聴したりするなど、必要に応じて学習者用 PC を有効に活用することが考えられる。 指導の効果を上げるために、内容に応じて、養護教諭や学校栄養職員等、専門性の高い人材を TT 等で活用することも考えられる。 題材によっては生徒に司会を任せることも考えられる。 個々の生徒の生活経験や発想の違いを生かしながら、解決方法を見付けられるようにする。(集団思考を生かす)
	学級活動(2) 学級活動(3)	
	【つかむ】 課題の把握	
	【さぐる】 原因の追求 必要性の実感	
	【見つける】 解決方法等の話し合い ○解決方法を決定する。 【決める】 個人目標の意思決定	P302 指導計画作成の配慮事項(1) <ul style="list-style-type: none"> 意思決定が難しい生徒に対しては、友達の意見(考え)を参考にしながら、自分の考えるめあてについて自分自身で決めることができるように支援をする。 話し合いで出された考えを踏まえ、自分の課題に合った具体的な目標を立てられているかを見取る。
事後の指導	○決めたことを実践する。 自分のめあてに沿って、一定期間実践する。 ●生徒の活動の様子を見守りながら、励ましたり、めあてを修正するように助言したりする。 ○振り返る。 実践を定期的に振り返り、意識化を図るとともに、結果を分析し、次の課題解決に生かす。	P302 指導計画作成の配慮事項(5) <ul style="list-style-type: none"> 継続した活動になるよう、日頃から声かけを行うなど個に応じた指導を行う。 個々の努力を認め励まし合う場を設定し、実践への意欲を高める。 めあてを確認し、追加したり、修正したりする。 個々の生徒の取組から、学級全体の取組へと広げていく。 必要に応じて、家庭との連携を図る。 実践の振り返りから、実践の継続や新たな自分の課題の発見につなげられるよう声かけをする。 学習カードの記述や実践の様子から、内容に応じた知識・技能等を身に付けているかを見取り、生徒の変容を称賛するとともに、指導改善に生かすようにする。

3 生徒会活動の指導と評価

生徒会活動は、異年齢集団の生徒による自発的、自治的な活動の特質とする教育活動である。教師の適切な指導のもと、生徒の発意・発想に基づき、創意工夫を生かして活動計画を作成し自主的、実践的な活動が展開できるようにすることが大切である。小学校での児童会活動などの経験を基礎にし、生徒の自発的、自治的に活動する態度や能力を一層高めることが重要である。

3-1 生徒会役員会（生徒会執行部など）が中心となつて行う活動例（学級活動(1)ウとの関連）

インターネット（以下、ネット）のよりよい利用について考える活動を、生徒会組織全体で実践する。その一連の活動の中において、学級活動との有機的な関連を図る。

活動の内容	「生徒自身による『私たちのネット利用ルール』づくり」について話し合う。	
活動のねらい	全校生徒が自らの学校生活や生活習慣を見直す習慣を身に付けられるようにする。	
6月～10月の活動	(1)全校生徒対象の「ネット意識調査」の実施（生徒会役員会） (2)生徒総会での、ネット利用ルールの基本方針の決定（生徒会役員会の提案） (3)「〇〇中学校ネット利用ルール（案）」を作成（生徒評議会） (4)全校集会での、「〇〇中学校ネット利用ルール（案）」の周知。（学級活動委員会主催）	
〇月〇日の活動 「学級活動(1)」	・議題「〇年〇組のネット利用のルールを考えよう」 ・提案理由（生徒会役員会が校内放送で説明） ・話し合うこと ①学校として守っていくべきこと、②学級で守ること ・決定事項の確認と今後の流れの確認	話し合いの様子を公開授業とし保護者や地域の方を校内に招く。地域一体となってネット利用のルールづくりやマナーについて考え、周知を図る。 P302 指導計画作成の留意事項(4)
11月～3月の活動 P302 指導計画作成の留意事項(5)	(1)学級活動での意見等を踏まえた「〇〇中学校ネット利用ルール（案）」の修正案の作成。（生徒会役員会） (2)「〇〇中学校ネット利用ルール」の決定（生徒会役員会で提案された修正案を基に、生徒評議会で話し合う） (3)決定した「ネット利用ルール」の積極的な広報（全校集会時や生徒会広報紙への掲載） (4)一連の活動の「振り返り」及び学年末の「第二回ネット意識調査」の実施	
4 指導上の留意点		
1 生徒会活動に関心をもち、生徒全員が生徒会員という自覚をもたせるよう「意識調査」の内容や実施方法を工夫する。 2 学級会や意見箱、生徒評議会などを通して、様々な立場からの意見を求め、自主的、実践的な活動が実現されるように支援し、今後の生活の中で意識できるようにしていく。		
5 企画・運営上の留意点		
1 生徒自身が自らの生活習慣を見直す取組であることを教職員がよく理解した上で進めていく。 2 生徒指導部会や小学校などと連携を図っていく。 3 地域との連携を図るため学校だよりやメール配信などによる保護者や地域への広報を図る。 P302 指導計画作成の留意事項(4)		

一連の活動を振り返るカード（事後の活動における振り返り）の例

「ネット利用ルール」振り返りシート（生徒会役員会用）		
活動目標	〇月〇日	〇年〇組 氏名 〇〇 〇〇
「自分の生活を見直し、自律する力を身に付けよう」		
1 今月の活動を振り返って	5:よくできている 4:できている 3:どちらかといえばできている 2:どちらかといえばできていない 1:できていない	
①あなたの活動について振り返りましょう。		
1 責任をもって取り組み、積極的に自分の役割を果たすことができた。	⑤・4・3・2・1	
2 仲間と協力して活動を行い、よりよい活動にすることができた。	⑤・4・3・2・1	
②生徒会役員会の活動について振り返りましょう。		
1 計画的に活動を行い、生徒会員と連携をして活動することができた。	5④・3・2・1	
2 率先して活動することでリーダーシップを発揮しながら活動することができた。	5④・3・2・1	
③今回の活動を通して学んだことや今後の学校生活に生かしていきたいことを書きましょう。		
<p>今回の取組でリーダーとしてみんなの意見を取りまとめて全体が丸となって取り組むことの難しさを学びました。よりよく学校生活を送るためには、全校のみんなの協力が必要不可欠であり、協力して問題を解決していくことの重要性を改めて感じました。大変な活動でしたが、協力して活動した達成感は忘れられません。今後の学校生活では、みんなと協力してこれまで以上にいろいろな活動に積極的に取り組みたいです。</p> <p>2 今後の活動でやってみたいことや改善したいこと</p> <p>ネット調査の「事前」と「事後」の結果を比較、分析し、改善が見られた点については全校生徒に伝えるなど、一人一人がさらに充実した生活を送れるよう、生徒会役員会として積極的に活動していきたい。</p>		
「ネット意識調査」の内容の例（一連の活動の事前と事後に実施）		
・あなたは平均してどれくらいインターネットやスマートフォンを操作しますか。 平日 90分 休日 180分		
評価項目		自己評価
1 「ネット利用ルール」を意識した行動をとり、目標を達成する事ができた。	5④・3・2・1	
2 〇〇中学校生徒会員として自分を律しようとする心構えをもつことができた。	⑤・4・3・2・1	
3 ネット利用と望ましい生活のためにはどうすればいいかがわかっている。	⑤・4・3・2・1	
※次の「4」については、3月に実施する調査で記入してください。		
4 「ネット利用ルール」の取組で学んだことや今後の生活に生かしていきたいことを書きましょう。		
<p>自分の生活リズムが安定することで学校生活にゆとりをもつことができた。自分たちで決めた「ネット利用ルール」なのだから意識して守ることで自分をコントロールする力が付くことがわかった。インターネットやスマートフォンはとても便利なものだけど、使い方に気を付けなくては自分の学校生活が脅かされてしまうことを学んだので、これからは使用時間や方法を確認しながら使用していきたい。</p>		

【知】
「よりよく学校生活を送るためには～」という記述から学校生活を向上させるためにどうしたらよいか考えることができおり、十分に満足できる活動の状況であると判断できる。

【態】
「今後の学校生活では～」という記述から今後の活動をより積極的に取り組もうという意欲的な姿勢が読み取れることから、十分満足できる活動の状況と考えられる。

活動の様子を評価規準に照らして評価する。生徒の自己評価や振り返りは参考とし、次回以降の指導に生かすようにする。

【思】
「自分たちで決めた～」や「とても便利なものだけど」という記述からこれからの生活について自分の考えをもてたり、どうしたらよいか考えを発展させたりすることができていることから、十分に満足できる活動の状況と考えられる。

3-2 保健委員会の活動例

一単位時間の活動計画例（保健委員会）

日時	○月○日（水）	活動場所	□年□組教室
内容	全校で取り組む「ウイルス撲滅キャンペーン」について話し合う。		
目標	全校生徒が自分から積極的に感染予防をする行動に取り組める内容を考える。		
活動の予定		時間	気を付けること
1 はじめのあいさつをする。 2 今日のためと活動の確認をする。 3 工夫することを話し合う。 ・「ウイルス撲滅キャンペーン」の実施方法について 4 決定事項を確認し、掲示物を作成する。 5 終わりのあいさつをする。		5分	あいさつを元気に行う。
掲示物は学級と全体の掲示板に貼り、意識付けをさせる。保健委員は決定したことを学級や集会の場で宣言し、生徒の意欲を高め、自ら行動を取れるようにしていく。			

活動振り返りカードの例【委員会評価カード】

第○回保健委員会の振り返り
 保健委員会の活動目標
 「みんなの健康を保つため丁寧な手洗い・うがいをするようみんなに声をかけます」

○月○日 ○年○組 氏名 ○○ ○○

1. 今月の活動を振り返って
 ①あなたの活動について振り返ってください

1	責任をもって健康観察や出席黒板の記入など自分の役割を果たすことができた。	⑤4・3・2・1
2	体調管理に努めるよう学級の環境を整えることができた。	5④3・2・1

②学級の様子について振り返ってください

1	手洗い・うがいなどを積極的に行っていた。	5④3・2・1
2	歯磨きを欠かさずに行っていた。	⑤4・3・2・1

③今月の活動を通しての反省や感想を書こう

爪検査の日に爪を切っていない人が多く、事前に声掛けをしておけばよかった。

2. 来月への申し送り事項（やってほしい、改善してほしいこと）

昼の放送や生徒会広報を使って手洗い・うがいなどの呼びかけをしたい。

・活動の目標は毎回確認をする。
 ・委員会評価カードは毎回1枚ずつ記入し各自でファイリングすることで個人の変容の手掛かりとなり、指導要録記載のための資料となる。

【留意事項】
 ・カードの様式を学校で統一し、同じ項目で振り返ること、生徒が振り返りやすくするとともに、教師が見取りやすくする。
 ・毎月の振り返りを行うことで前期・後期の活動を円滑にし、委員会担当教師が変わっても評価できるようにする。

活動の様子を評価基準に照らして評価する。生徒の自己評価や振り返りは参考とし、次回以降の指導に生かすようにする。

活動を振り返るカード例【事後活動における振り返りカード】

評価項目	自己評価
1 宣言を実際に行動して達成することができた。	⑤4.3.2.1
2 学級の一員として健康を保とうとする心構えをもつことができた。	5.④3.2.1
3 キャンペーン終了後も「健康維持」のためにはどうすればいいかがわかっている。	⑤4.3.2.1
4 この取組を振り返っての感想 クラス全体が健康を守るために具体的に行動するにはどうしたらよいかということについて考えることができました。友人の何気ない一言や工夫に対してなるほどと思うこともたくさんありました。今回のキャンペーンを終えてもみんなが元気に学校生活を送ることが大切なのでお互いに声掛けができる雰囲気を作っていきたいと思います。	

【思】
 「クラス全体が～」という記述から自分の考えをもてたり、友人の意見を参考に考えを深めたりすることができおり、十分に満足できる活動の状況であると判断できる。

3-3 評価例（生徒会活動における教師の補助簿例）

令和○年度（生徒会）活動評価カード 評価者 △△ △△

出席番号	氏名	生徒会役員会			メモ	総括
		知・技	思・判・表	態		
1	A		○	○○	生徒評議会では率先して話し合い活動に参加し、周囲と協力して目標や計画を立てることができた。	○
2	B	○			専門委員会の定例会では担当する委員会と生徒会役員会との協議を生かして発言することができた。	

【態】
 率先して活動し、周囲と協力する様子から十分に満足できる状況であると判断できる。

令和 ○年度（委員会活動）○○委員会 活動評価カード 評価者 △△ △△

出席番号	氏名	知・技	思・判・表	態	メモ	総括
2	B	○○○			集会では事前に準備した資料を基に分かりやすく説明をし、集会の趣旨である内容を伝えることができた。	

【知】
 ねらいを正しく理解し、生徒全体にわかりやすく説明できることから十分に満足できる状況であると判断できる。

【留意事項】

・生徒会役員会及び委員会活動については、学級担任と担当する教師との連携を図る評価体制を確立する必要がある。

4 学校行事の指導と評価

学校行事は、全校または学年という大きな集団を単位として行われる活動であり、生徒が協力して行う活動である。また、学校が計画し実施するものであるとともに、生徒が積極的に参加し協力することによって充実する教育活動である。学校行事の意義を十分に理解した上で、教師の適切な指導のもとで行事の特質や生徒の実態に応じて、生徒の自主的な活動を助長することが大切である。

4-1 文化的行事の指導計画例（合唱コンクール）

1 ねらい

- 他の生徒と協力して日頃の学習や活動の成果を発表したり、芸術的なものや伝統文化を鑑賞したりする活動に必要な知識や技能を身に付けるようにする。【知】
- 他の生徒と協力して日頃の学習や活動の成果を発表したり、芸術的なものに触れたりして、自他の個性を認め互いに高め合うことができるようにする。【思】
- 生涯にわたって、多様な文化芸術に親しむとともに、自己の成長を振り返り、自己を一層伸ばさせようとする態度を養う。【態】

2 実施計画

- (1) 令和〇年〇月〇〇日（〇曜日）第1～6校時 (2) 場所 〇〇会館または本校（体育館等）
- (3) 参加学年 全学年

3 活動内容と展開

- (1) 活動内容等 ～生徒の文化活動の発表（合唱コンクール）10月下旬を実施日として～

対象	発表形態	発表の具体例（発表者・発表内容）
生徒	ステージ	全校合唱、学年合唱、学級合唱、文化部（吹奏楽部、合唱部、日本文化部（箏曲等）、音楽科（有志合唱・器楽））
教師 地域	ステージ	全教師による取組（合唱、朗読等）、専門性を有する教師・保護者・地域住民の発表

P302 指導計画作成の留意事項(4)

- (2) 事前の指導と生徒の活動と当日の展開

期日	主な活動の内容	生徒の活動	実行委員会	親・地域との連携	指導上の留意点
7月～ 9月上旬	1 行事の説明 2 発表内容の検討・決定	・各教科、各学級・学年、生徒会、各部活動等それぞれの単位で発表内容を考える。	・説明を受け実行委員を選出する。 ・テーマについて検討し、決定する。	・担当者を通じてPTAや地域に開催の日時や内容を伝える準備をする。	・実行委員会を組織し、全体計画を立てる。 ・教師の指導の下、生徒が主体的に企画・運営が行えるよう環境を整える。
9月中旬 下旬	3 準備期間① (全体計画を見通して当日までの流れをつくる)	・学級ごとに発表の準備・練習を行う。	・運営の中心となって、練習場所など当日までの運営を行う。	・担当者を通じてHPや通知文・パンフレットの準備を行う。	・当日の発表に向けて全体計画に沿って準備を進めていく。 ・特活部と実行委員が有機的な連携が図れるよう工夫する。
10月上旬 中旬	4 準備期間② (リハーサルや交流会を通して、発表の質を高める)	・学年リハーサルを行う。 ・学年縦割りで交流会を行う。	・当日の動きを確認し、雰囲気をつかっていく。 ・縦割りの活動として場所と時間の調整を行う。	・当日のパンフレットを印刷し家庭や地域に配布する。	・教師側と生徒側の動きがリンクするように見通しを持って指導する。 ・異学年同士の交流によって、お互いを励ましたり、高め合ったりする。

	日程・活動内容	指導上の留意点
〇月〇日	10:00 入館・各学級リハーサル	実行委員が先に入館し、舞台装置の確認・組み立て、生徒の誘導を行う。
	12:30 合唱コンクール開会行事	実行委員や生徒会役員会がプログラムに沿って進行する。
	13:00 各学級合唱発表	運営役の実行委員が各学級の実行委員と連携をしてプログラムを進める。
	15:00 音楽系文化部発表	合唱部・日本文化部等が発表をし、並行して実行委員が結果の集計を行う。
	15:45 結果発表・閉会行事	実行委員が結果を発表し、閉会行事の運営も行う。
	16:00 帰りの会・片付け・退館	各学級で帰りの会を行った後、実行委員会で片付けの確認を行う。

※学校行事において育成すべき資質・能力（目指す生徒の姿）を意識して指導に当たることが留意する。

(3) 事後の指導

期日	主な活動の内容	生徒の活動	実行委員会	指導上の留意点
10月～11月	1 行事のまとめ 2 教師の評価	○発表団体ごとに振り返りカードに自己評価と他団体の評価を行う。	○反省会を開き、実行委員会としての評価を行い、課題を次年度に引き継ぐ。	○ねらいを振り返らせ、今後の学校生活等の文化的素養の育成に資するようにする。

4-2 評価例

- 文化的行事で育成を目指す資質・能力→中学校学習指導要領解説特別活動編P97を参照
- 文化的行事の評価規準（内容のまとめりごとの評価規準）は本書特別活動P308を参照
- 事後の活動に利用する自己評価カード等の例と実際の生徒の記述

合唱コンクール 振り返りシート

目 標：○○中の歴史に全力の「今」を刻もう！！
テーマ：流れる汗 こぼれる笑顔 生まれる絆

この用紙は、自分が○○祭にどう関わることができたかを振り返るとともに、今後の生活に生かしていくためのものです。活動を振り返って、下のA～Dの中で適切だと考えるものに○をつけましょう。
A：よく当てはまる B：やや当てはまる C：あまり当てはまらない D：当てはまらない

1 自分自身の取り組みを振り返りましょう。

①クラスの取組に対して、自ら進んで全力でやり抜くことができた。	A	B	C	D
②自分自身の力やこれまでの取組の成果を最大限に発揮することができた。	A	B	C	D
③他の発表に対しマナーを守って鑑賞することができた。	A	B	C	D
④仲間の頑張りを認め、互いに切磋琢磨し、高め合うことができた。	A	B	C	D
⑤合唱コンクールを通して、自分自身の成長や自信につながったことは何ですか。また、その経験をこれからの生活にどのように生かしていきたいですか。 <i>普段人前には出たり、リハーサルをとりまくることに慣れて、実行委員としてクラスをまとめた後、共に喜びを感じた。今後、常務の役に努めたい。また、この経験を生かして、仲間と協力して取り組んでいきたい。</i>				

2 自分が所属するクラスや団などの仲間の取り組みを振り返りましょう。

①多くの人と関わり、協力して取り組むことができていた。	A	B	C	D
②集団での力やこれまでの取組の成果を最大限に発揮することができていた。	A	B	C	D
③他の発表に対しマナーを守って鑑賞することができていた。	A	B	C	D
④仲間の頑張りを認め、互いに切磋琢磨し、高め合うことができていた。	A	B	C	D
⑤自分のクラスについて、どんなところが成長したと思いますか。また、仲間のどのような行動が成長につながったと思いますか。 <i>最初、男子はほぼ全員が参加して、徐々に協力して取り組むようになっていき、最終的には男子の歌声を聞いて、活動に積極的に関わって、その結果、クラスの進歩はクラス全体に良い影響を与えた。</i>				

全校生徒で確認した目標とテーマの達成を目指すようなワークシートの作りをする。1 自分自身の取り組みと、2 主に仲間の取組を評価する。4段階の自己評価を行い、教師が評価する際に参考にすると共に、記述についても見取るようにする。最終的に、自己評価カードを個人の振り返りだけに使うのではなく、学年・学校全体でグラフ化し傾向を読み取り、教師側は今後の文化的行事の運営や評価の参考となるようにする。

観点別学習状況の評価の進め方の一例として学習プリントを参考にした評価が考えられる。

【態】
自分の行事の関わり方について「今後、苦勞の先に得られるものがある～」と記述しており、嫌なことでもめげずに頑張ると前向きな姿勢が読み取れることから、十分満足できる活動の状況と考えられる。

【知】
「0から1への進歩はクラス全体にとってもよい影響～」と記述しており、進歩することが学級全体の成長につながると理解していることから、十分満足できる活動の状況と考えられる。

学校行事の評価補助簿の例

重点評価学校行事内容		儀式		文化			健康安全・体育			旅行・集団宿泊			勤労生産・奉仕			備考	総括
重点評価行事項目		始業式	入学式	○○祭			持久走大会			修学旅行			校内奉仕作業				
評価の観点（○重点評価項目）	知	態	知	思	態	知	思	態	知	思	態	知	思	態			
1	A		○	○	○			○	○	○	○		○	○	○○祭では実行委員としてリーダーシップを発揮し、演劇コンクール教員賞を受賞することができた。入学式では最上級生として新入生を迎えるべく、積極的	○	
2	B			○									○				

各行事で目指す生徒像の姿を明確にし、校内で共通理解を図り生徒の資質・能力を学校全体で育成する。

学校行事の中から特に重点評価行事を定めて評価する。○の数の基準を定めておき、年間の特別活動の評価の欄に○を付ける。担任は備考にメモを残し、評価の根拠とする。

留意事項

- ・特別活動の全体及び各活動・学校行事ごとの指導と評価の計画を作成し、計画に基づいて、評価のための基礎資料を収集する。事前・本時・事後における「目指す生徒の姿」については評価規準を基にして設定する。
- ・評価をする際、自己評価、相互評価も参考にしつつ、学校が定めた評価規準を基に、多面的、総合的に三つの観点について評価する。評価結果については指導や評価体制の改善に生かす。
- ・学校行事の評価においては、特定の行事に重点を置いて評価することも考えられる。上記の「評価補助簿の例」では五つ設定してあるが、それより重点評価行事項目をしぼるなど、持続可能な評価が今後において考えられる。

第4 本時の指導計画例と評価及び改善の考え方

＜事例1＞ 第2学年 学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」

内容 ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

第2学年〇組 学級活動(1)指導案

令和〇〇年10月30日(水) 第〇校時

指導者 教諭 〇〇 〇〇

- 1 議題 「合唱コンクールを成功させるための取組を考えよう」(ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決)
- 2 議題について
 - (1) 生徒の実態 (略：生徒の学級生活や学級活動における実態について記述する。)
 - (2) 議題選定の理由 (略：選定された背景や教師の指導観などについて記述する。)
- 3 第〇学年の評価規準 (略：P307 参照。1時間ごとに評価規準を作成するのではなく、学校で定めた評価規準を記述する。)

4 事前の活動

本時に至るまでの過程が何より重要となる。議題の内容によって必要なことには適宜対応する。

日時 活動の場	生徒の活動 ○学級活動委員会 ●全員の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】(評価方法)
10月23日(水) 放課後	○出された議題から望ましい議題を2～3個選定する。	・議題を選定する際の視点について助言する。	◎よりよい学級生活を目指し、進んで議題を考えたり決めたりしている。 【態】(観察、提案カード)
10月24日(木) 帰りの会	●議題を決定する。	・学級活動委員の提案のもと、全員で議題を決定する。	
必要感や切実感を全員が共有できるようにする。 P.302 指導計画作成に当たっての留意事項(6)			
10月25日(金) 放課後	○活動計画を作成する。 (提案理由、めあて、話し合うこと、決まっていること(条件)、役割分担等) ○学級活動コーナー等に掲示する。	・提案者の思いが全員にも伝わるように提案理由の練り上げに努めるようにする。 ・日時や場所等の条件を教師が設定して伝える。 ・前回までの反省を生かすという視点について助言する。	◎学級活動委員の役割や合唱コンクールに向けた取組を決めるための話し合いの進行の仕方等を理解している。【知】(活動計画、観察)
10月28日(月) 帰りの会	○話し合うことを全員に知らせる。 ●学級活動ノートに自分の考えを記入する。	・話し合うことや決まっていることが共通理解できるよう助言する。 ・提案理由に沿った意見を書くことができるように助言する。	学級でこれまで積み重ねてきた経験や成果から、今回に生かせる課題等を見付け新しい学びに生かす。
10月29日(火) 放課後	○回収した学級活動ノートに目を通し、意見を整理する。 ○必要に応じて、可視化できる資料や短冊を用意する。	・話し合いの見通しをもつことができるようにする。 ・必要に応じて、短冊への記入をしておく等の助言を行う。	出された意見を事前に分類整理しておくことが、本時の話し合いを円滑に進めることにつながる。

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

よりよい学級生活をつくるため、自分の意見をしっかり伝え、学級の仲間の考えも生かし合いながら、合唱コンクールに向けた取組を考えることができるようにする。

(2) 指導計画

活動の計画	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】(評価方法)
1 はじめの言葉 2 学級活動委員の紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認 5 決まっていることの確認 6 話し合いのめあての確認 7 話し合い	提案理由：・・・(中略)学級の目標と具体的な取組を考え、全員で協力して取り組むことができれば、合唱コンクールが成功するだけでなく、クラスも成長できると思い提案しました。 ・学級全体の問題であることを伝える。 ・決まっていること(条件)を全員できちんと共通理解できるようにする。	(提案理由に入れる内容の例) ・現状の問題点 ・考えられる解決の方法 ・解決後のイメージ

<p>話し合うこと① 「合唱コンクールに向けた学級の目標を決めよう」</p> <p>話し合うこと② 「目標を達成するための取組を決めよう」</p> <p>話し合うこと③ 「役割分担を決めよう」</p> <p>8 決まったことの確認</p> <p>9 振り返り</p> <p>10 教師の話</p> <p>11 おわりの言葉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間となることを踏まえ、①については「比べ合う」ことから始めるとうい。その際には、事前に短冊を黒板に貼っておくなどの準備を行った上で、追加の意見についても冒頭に確認してから進める。 ・「比べ合う」から「まとめる」段階に入際において、意見がまとまらない時や自治的活動の範囲を逸脱しそうな場合には、適宜助言し、「提案理由」や「決まっていること」に立ち返りながら合意形成を図れるようにする。 ・終末の助言では、①合意形成したことへの価値付けや個人や集団への称賛、②今後の課題、③学級活動委員へのねぎらい、④今後の見通しや実践に向けての意欲付け等について簡潔に述べ、特に前回の話し合いと比べての変容について称賛する。 	<p>◎理由を踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを伝えている。【思】(観察、学級活動ノート)</p> <p>◎活動の目標や活動内容について合意形成を図るため、建設的な意見を発表している。【思】(観察、学級活動ノート)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【その場ですぐに指導助言を行う場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を傷付けることが予測される内容 ・実施の時間や校内の決まり、施設上に関する事 ・金銭に関する事 ・健康や安全を損なう恐れがある事 </div>
---	---	--

6 事後の活動

日時	生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】(評価方法)
【10月30日(水) 帰りの会】	・決まったことを学級活動コーナー等に掲示する。	・全員にとってわかりやすく書くように助言する。	◎目標を意識し、友達と協力しながら実践に取り組んでいる。【思】(観察、振り返りシート)
【11月1日(金) ~12月4日(水)】	・全員で決めた取組を実践する。 振り返りは「事前・本時・事後」の一連の学習過程を通して行うようにする。	・活動意欲を継続できるよう、役割ごとの報告を取り入れるなど、適宜生徒が課題をもって取り組めるようにする。	◎合唱コンクールを振り返り、全員で決めて実践するよさを感じ、次の活動に生かそうとしている。【態】(振り返りシート)
【12月5日(木) 帰りの会】	・実践についての振り返りを行う。	・話し合いや実践のよかった点や課題等をまとめるよう助言する。	

<学級活動ノートの例>

<振り返りシートの例>

学級会ノート 年 組 名 前

第〇回学級会 〇月 〇日(〇) 可会…() 補佐…()
〇枚時 黒板…() ノート…()

議題	合唱コンクールを成功させるための取組を考えよう。
提案者	合唱コンクール実行委員
提案理由	…(中略) 合唱コンクールを通してクラスがさらに団結できるよう、学級の目標と具体的な取組を考え、全員で協力して取り組む事ができれば、合唱コンクールが成功するだけでなく、クラスも成長できると思い提案しました。
話し合いのめあて	・自分の意見をしっかりと伝え、クラスの仲間の意見もふまえた上で、クラスがよりよくなるためにどうすれば良いか考えよう。
決まっていること	・クラスとしての達成目標を決める。・具体的な取組を決める。・取組の経過がわかる掲示物を作成する。・校内の決まりを守る。・本番まであと〇日。
話し合うこと① ・合唱コンクールに向けた学級の目標を決めよう。	自分の意見 理由 ・聞いていて人を感動させる。・成長する。 理由 ・聞いていて人を感動させることができれば最優秀賞をとることができると思ったから。 ・合唱コンクールの取組を通して、クラスが成長できたいと思ったから。
話し合うこと② ・達成するための取組を決めよう。	自分の意見 理由 ・歌った回数分かる掲示物を作成する。 理由 ・歌う前に陣を組む。 理由 ・回数がわかればやる気も出てくると思ったから。 ・陣を組めば気合いも入り、団結できると思ったから。
話し合うこと③ ・役割分担を決めよう。	自分の意見 理由 ・それぞれの掲示物を作成する人を決める。 理由 ・陣で声かけをする人を決める。 理由 ・みんなで協力してやれば良い物ができると思ったからです。 ・目標【感動・成長・心ほひとつ】 ・曲のポイントを書き込む歌詞カードの掲示物を作成する。 ・本番までの取組が分かるような掲示物を作成する。 ・歌う隊形になったら全員で合い言葉を叫んでから練習を始める。
感想	合唱コンクールを成功させるためにクラスでできる事は何かを考えることができました。友達のことを聞いて、なるほどと思うことがたくさんありました。友達の意見を参考にして考え、新しい考えも伝えることができました。みんながクラスの為にたくさん意見を言っていたので、この話し合いが合唱コンクールを成功させる第一歩になると思いました。みんなで決めたことを実行して、目標を達成したいという気持ちがありました。

〇年〇組合唱コンクール成功大作戦 の振り返り

年 組 番 名 前

<取組めを振り返って>

みんなで考えた目標や取組が成功させられるように、みんなで協力して取り組むことができました。問題が起きた時も相談しながら解決することができたので、クラスも成長できたと思います。

<今後の生活に生かしていきたいこと>

合唱コンクールを通して自分の任された役割をしっかりと果たすことができ自信が持てたので、今後の生活でも気づいたことはみんなにも声をかけてクラスをよくできたらと思いました。

【態】

目標を意識しながら友達と協力して取り組んでいることから、十分に満足できると判断できる。

【思】

友達の意見を参考に自分の意見を持ち、合意形成を図れていることから、十分に満足できる活動の状況であると判断できる。

〈事例2〉 第1学年 学級活動「(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」
 内容 才 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

第1学年〇組 学級活動(2)指導案

令和〇〇年10月17日(金)第〇校時
 指導者 教諭 〇〇 〇〇
 栄養教諭 〇〇 〇〇

1 題材 「 栄養の偏りのない食事のとり方 」
 (才 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成)

2 題材について

- (1) 生徒の実態 (略：生徒の学級生活や題材にかかわる実態について記述する。)
- (2) 題材設定の理由 (略：本題材を取り上げる必要性など教師の題材観、指導観などについて記述する。)

3 評価規準(略：P307 参照。1時間ごとに評価規準を作成するのではなく、学校で定めた評価規準を記述する。)

4 事前の指導

生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】(評価方法)
<ul style="list-style-type: none"> ・週末の昼食についてアンケートに取り組み、自分の食事のとり方について振り返る。 ・給食の食事量から栄養バランスの偏りがいないかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭と連携し、成長期に欠かせない栄養素についてわかりやすく資料の提示をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分の食事のとり方を振り返り、アンケートに答えている。 【思】(アンケート)

5 本時のねらい

食事の意義を理解し、栄養のバランスの取れた食生活ができるようにする。

6 展開

	生徒の活動	指導上の留意点		資料	◎目指す生徒の姿 【観点】(評価方法)
		T1(学級担任)	T2(栄養教諭)		
導入 10分(つかむ)	1 本時のテーマについて確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;"> 栄養の偏りのない食事のとり方 </div> 2 アンケート結果、給食献立表から課題を知る。		<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果をスクリーンに映し食生活の現状を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食献立表 ・アンケート集計結果 	T1とT2の役割を明確にする。特にT2の役割や指導内容については事前に打合せを行い、生徒の実態に即して指導内容の重点化を図り、指導の効果が高められるようにする。
展開 30分(さぐる)	3 栄養教諭の話聞き、食事から摂れる栄養素を確認する。 4 課題をそのままにしておくとどのような問題点が起こるかを考える。 5 給食献立表を手掛かりにして土曜日の昼食についてよりよい献立とするための方法を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の偏りにより、体の不調や不慮の怪我につながる恐れがあることに気付けるようにする。 ・事前の活動で食事量を書き入れた献立表の中から、自分の栄養の偏りを確認し献立に生かすよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の献立を作るうえで考えている栄養バランスについて説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食写真 ・給食献立表 	
			<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導を通して、苦手な食材からとれる栄養をどのようにしたらとれるか助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カード ・ホワイトボード 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分の食生活の改善点を見付け、改善しようとしている。 【知】(発言・ワークシート)

(見つける)	6 考えた方法を基にグループで話し合い、献立をたて、発表する。	・他のグループの工夫点を反復し意識できるようにする。	・各グループのよい点と改善点について助言する。	事前アンケートを参考に、似た課題をもつ生徒で意図的にグループを編成し、活発な意見交換ができるようにする。
終末 10分 (決める)	7 出された解決方法の中から自分に合った実践方法を決め発表する。 8 栄養教諭から助言を聞く。	・個々に合っためあてや実践方法を決めて学習カードに記入できるようにする。	・授業後の実践につながるような具体的な助言ができるようにする。	・学習カード ◎自分の課題に合った実践方法を決めている。 【思】 (観察・発言)

7 事後の指導

生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】(評価方法)
<ul style="list-style-type: none"> 自分が決めた方法で取り組み、学習カードに記入する。 週末の昼食で実践し、工夫したことや難しく感じたことをまとめ発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 取組を確認し合う場を設け、お互いの実践を認め励まし、継続的に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分で決めた実践方法に取り組もうとしている 【態】(観察・学習カード)

<学習カードの例>

学級活動「栄養の偏りのない食事のとり方」

学習日： 月 日 1年 組 番 氏名

【本時の目標】
自分で偏りのない食事をとれるようにするために、気を付けていくことを決めよう。

【つかむ】 アンケート結果を見て、どのようなことを感じましたか。

品数

量は

バランスは

【さぐる】 食事のとり方について、どのような問題が考えられますか。

- 給食に比べると、品数が少ない。
- 栄養バランスに不安のある人が多い。
- インスタント食品だけにしてしまったので、栄養が足りないかもしれない。

【見つける】 それらの問題を解決するために、自分でできる解決策はどのようなことが考えられますか。

- 品数は、気を付ければ増やせる。
- 苦手な食べ物もあるけれど、料理方法によっては食べられるので工夫できる。

【決める】 望ましい食習慣づくりに向けた自分のめあてを書きましょう。

- 一品だけでにしない。
- 簡単にできる卵料理やスープの作り方を教えてもらう。
- インスタント食品の時は、サラダと一緒に食べるようにする。

【実践】 給食で残したものの、週末の昼食のメニューと感想を書きましょう

平日	日(月)	日(火)	日(水)	日(木)	日(金)
給食	完食	キャベツの和え物 (半分)	おろし野菜のオムレツ (一切れは食べた)	完食	鶏肉のネギ塩だれのレバー
土	親子丼・野菜炒め・漬物				
日	親子丼だけにせず野菜も食べるようにしました。				
	山菜うどん・サラダ・牛乳		サラダを買っておいでもらいました。お腹一杯になりました。		

【実践の振り返り】 記入日： 月 日

平日：苦手だから食べなかったことで栄養のバランスがとれていないことがわかったので、一口だけでも食べるように心がけました。苦手な食材もあるけれど、少しでも食べるようにして、少しは栄養の偏りが減らせたいです。

週末：うどんだけでなくサラダと一緒に食べました。『食べたもので自分の体がつくられる』という栄養士の先生の言葉にドキッとしました。週末は自分で決められ好きなものしか食べていなかったで、親と相談してサラダを買っておいでもらいました。

【先生から】
積極的にたくさんの食材をとれるような献立案を出していましたね。これまでの課題を踏まえ、サラダを加えるなど栄養のバランスを考えた昼食にできました。

【知】
栄養教諭の話から、栄養の偏りのない食事の必要性を理解して、食事のとり方について具体的な課題を挙げられたことから、十分満足できる活動の状況であると判断できる。

【思】
本時で学習したことを基に、自己の課題を見つめ、具体的な目標を立てられたことから、十分満足できる活動の状況であると判断できる。

【態】
苦手なものも食べるようにしようと努力していることが給食時にも見られた。このような生徒の様子や振り返りの記述から、十分満足できる活動の状況であると判断できる。

生徒の自己評価や相互評価をそのまま学習評価としない。生徒の行動の様子やカードの記述から教師が見取り、評価する。

生徒の取組を励ましたり、価値付けたりする。

<事例3> 第3学年 学級活動「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」
内容 ウ 主体的な進路の選択と将来設計

第3学年〇組 学級活動(3)指導案

令和〇〇年4月20日(水) 第〇校時

指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 題材 「3年生になって」(ウ 主体的な進路の選択と将来設計)

2 題材について

(1) 生徒の実態 (略: 生徒の学級生活や題材に関わる実態について記述する。)

(2) 題材設定の理由 (略: 本題材を取り上げる必要性など教師の題材観、指導観などについて記述する。)

3 評価規準 (略: P307 参照。1時間ごとに評価規準を作成するのではなく、学校で定めた評価規準を記述する。)

4 事前の指導

生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿【観点】(評価方法)
・アンケートに取り組み、中学3年生に進級したことに対する期待や不安、頑張りたいことについて考える。	・アンケートを通して、「今の自分」についてどのように考えているかを見つめられるようにする。	◎今の自分の姿を振り返り、なりたい自分について考えている。 【思】(アンケート)

5 本時のねらい

義務教育最後の学年であることを自覚し、今の自分を見つめ、なりたい自分の姿に向けてこれから努力していくことを決めて実践できるようにする。

6 展開

時間	生徒の活動	指導上の留意点	資料	◎目指す生徒の姿【観点】(評価方法)
導入 10分(つかむ)	1 3年生の1年間でどんな学習や行事を行うのか、イメージをもつ。 2 自分の興味がわいたものについて話し合い、どんな3年生になりたいか考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin: 5px 0;">3年生になって</div>	・3年生の学習内容や行事を教師が写真と映像を交えて紹介し、1年間の具体的な見通しや期待感をもてるようにする。 ・前学年度末に記入した「私の志ノート」を基に振り返り、なりたい自分について考えられるようにする。	・写真、動画 ・前年度の「私の志ノート」	P302 指導計画作成の留意事項(3)
展開 25分(さぐる)(見つける)	3 3年生になることに関するアンケート調査の結果を知り、思いや願いを共有する。 4 3年生になることへの様々な思いを基に、どんな取組をしていくことができるか話し合う。 【①期待していること】 【②不安なこと】 【③頑張りたいこと】	・3年生になることに関するアンケート調査の結果から、友達も自分と同じように期待や不安なことがあることに気付けるようにする。 ・①期待はさらに大きなものへ②不安はどのようにしたら解消できるか③頑張りたいことを実行するにはどうしたらよいか、視点を明確にして多様な意見が出るようにする。 ・全体で共有をして、生徒同士や教師と生徒の対話の充実を図る。	・アンケート結果のまとめ ・ホワイトボード	P302 指導計画作成の留意事項(2)
終末 15分(決める)	5 「私の志ノート」の「3年生としてどんな自分になりたいか」について記入し、なりたい自分に向けて目標を意思決定する。 6 立てた目標を発表する。	・実現可能になっているか、具体的なものか、について助言する。 ・集団や学級全体のことを考え、自分なりの役割も考えるよう助言する。	・「私の志ノート」	◎なりたい自分に向けて、自分の目標を意思決定している。 【思】(観察・「私の志ノート」)

7 事後の指導

生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿【観点】(評価方法)
・自分の目標を掲示し、立てた目標が達成できるように取り組む。 ・1か月後にチェックカードを用いて振り返る。 ・今までの取組を振り返り、目標を修正して1か月間取り組む。	・可視化し、常に目標を意識して取り組めるようにする。 ・チェックカードの自己評価によって、成果と課題に気づき、目標の改善を図るようにする。 ・チェックカードを互いに共有し、友達の改善に対してアドバイスをしてよりよい目標を設定する。	◎なりたい自分に向けて、自分の立てた目標に粘り強く取り組もうとしている。 【態】(観察、「私の志ノート」)

チェックカードの共有は、個人な内容に配慮をしつつ、お互いに認め合い多様な考えを知るきっかけとする。共有することで、新たな発見ができ、自分の目標設定や行動に生かすようにしていく。

「私の志ノート」は、小学校、中学校、高等学校の系統的なキャリア教育を推進するため、生徒が自分自身の学習経験の記録や活動の記録を継続的に積み重ねていくキャリア・パスポートである。

「私の志ノート」

自分を見つめてみましょう

名前

★ 好きなこと

- ・読書をする。
- ・友達と話す。
- ・音楽を聴く。

★ 自己PR (自分のよいところ)

- ・好きなことをしているときは短い時間に熱中してとことん取り組み、苦手なことにも諦めずにチャレンジできる。

★ 将来の夢

獣医師になりたい。

そのために身に付けたいこと
→ 理科の勉強に進んで取り組む姿勢。

★ 3年生としてどんな自分になりたいですか。

学習

テストで全教科80点以上をとる。

そのために身に付けたいこと
→ 一日に三時間以上勉強する。

生活

毎日安定した生活リズムをつくる。

そのために身に付けたいこと
→ 休みの日も早寝早起きをする。

家庭・地域

地域の一員としての自覚をもつ。

そのために身に付けたいこと
→ 奉仕活動と地域清掃に参加する。

習い事・資格取得など

ピアノの習い事の発表会でよい演奏をする。

そのために身に付けたいこと
→ 繰り返し何度も自主練習をする。決めた時間に集中して練習する。

★ どんな学年にしたいですか。

こんな学年したい
学年全員が笑顔で卒業式を迎える学年にしたい。

そのためにがんばりたいこと
→ 受験のプレッシャーをお互いに励まし合って、悩みを相談しあう。

○ 担任の先生から

将来の夢に向けて、具体的に取り組むことをよく記入できています。目標を振り返り、実践できているか自らを適切に評価できている点はとても立派です。

○ 保護者などから

幼い頃からの夢をいつまでも大事にしているね。決して簡単ではありませんが、一日一日の努力の積み重ねがきっと力になっていくよ。応援しています。

事前の活動

本時 (終末) の活動

事後の記入

【思】

「獣医師になりたい。」という将来の夢に向けて、今の自分に必要なことを具体的に記述し、あらゆる面から自分をよりよく高めようとする意思や発言をしていた状況や、達成困難な目標ではなく、自分の状況と照らし合わせながら目標設定ができてきている点から、十分満足できる活動の状況であると判断できる。

1か月間取り組み、できたこととできなかったことを振り返り、さらに自分に適した個人目標になるように、修正できるようにする。

【態】

「繰り返し何度も自主練習をする。」という目標が実践困難であると判断し、自分の特性をよく理解してより自分が達成できるような目標に修正している。修正した目標に諦めず粘り強く取り組んでいる姿から十分満足できる活動の状況であると判断できる。

教師の言葉から生徒の目標設定やその実現に向けた努力を認め、自己肯定感を高められるようにする。その成長を願う一人の大人として、具体的な項目に対して肯定的な言葉で記入することが考えられる。保護者へは、メッセージを記入してもらうことの意義を説明することで、生徒が取り組もうとしていることを家庭と共有し、認めてもらうように働きかけることができる。

1か月間の取組後に自己評価をして振り返ることで、目標達成に向けて粘り強く取り組むことができると考えられる。また、今後の指導や評価の要素として扱うことが考えられる。

「私の志ノート」チェックカード

3年 組 番 氏名

- ①: 「私の志ノート」を見て、【学習】【生活】【家庭・地域】【習い事・資格取得】の4つの項目で記入したことをこのチェックカードにも写そう!
- ②: 1か月後、自分が立てた目標に対して、できたこと・できなかったことを自己評価して振り返ろう!
- ③: 自己評価して振り返った目標を、今度は友達にも見せてアドバイスを書いてもらおう!
- ④: 友達からのアドバイスに耳を傾けて、立てた目標やそのために身に付けたいことなどを達成により近づけるように修正しよう!

【項目】	目標	評価	そのために身に付けたいこと	評価
【学習】	テストで全教科80点以上をとる。	○	一日に三時間以上勉強する。	○
【生活】	毎日安定した生活リズムをつくる。	○	休みの日も早寝早起きをする。	○
【家庭・地域】	地域の一員としての自覚を持つ。	○	奉仕活動と地域清掃に参加する。	○
【習い事・資格取得】	ピアノの習い事の発表会でよい演奏をする。	○	繰り返し何度も自主練習をする。	△

★自己評価の理由

どの目標もなりたいたい自分に近づけるように設定できた。しかし、【習い事】では、繰り返し自主練習があまりできなかったので少し見直していきたい。

★友達からのアドバイス

目標を達成するために身に付けたいことが具体的に書かれているので良いね。もうできているものはさらにレベルを上げてほしいと思います。頑張ってね!

第5 特別活動の指導・評価と指導要録

1 特別活動における指導・評価

特別活動の評価は、特別活動が人間形成に関わる多様な資質や能力の育成を目標としていることから、生徒のよさや可能性、進歩の状況などを積極的に取り上げることが基本として進めることとなる。評価した生徒の活動状況については、通信簿や面談などを通して保護者に積極的に伝えたり、理解を得たりして、よりよい成長を目指して共に指導に当たるようにするなど「指導に生かす評価」となるよう配慮することが大切である。

指導要録における特別活動の記録欄については、前回の改善同様に特別活動全体に係る評価の観点を各学校が設定し、内容ごとに評価規準を作成することが示された。これは、各学校で「特別活動でどんな生徒を育成するのか」について考え、全教職員の共通理解のもと、評価の観点について検討し、ねらいを明確にした指導が展開されることを意図している。これらのことを踏まえ、以下の点に留意して特別活動の指導と評価を進めることが大切である。

- 特別活動の目標や例示された評価の観点を参考に、各学校で評価の観点を定め、指導要録にも記載する。
- 各学校において定めた評価の観点に沿って評価規準を設定し、活動の状況を正しく見取る手立てや評価体制を構築する。
- 生徒のよさや進歩の状況などをどのように捉えるかなどについて共通理解を図るとともに教師相互の話合いや情報交換を積極的に行い、確実に資質・能力が育成されるよう指導の改善に生かしていく。

2 指導と評価のための資料の収集

評価カード等の資料は、蓄積していくことが、生徒自身がこれまでの活動を振り返りながら新たな学習や生活への意欲につながったり、将来の生き方を考えたりするために有効であると考えられる。その際、生徒自身の自己評価や集団の相互評価による評価などについては、集団活動や自らの実践のよさを知り、自信を深め、課題を見だし、それらを自らの実践の向上に生かすなど、生徒の活動意欲を喚起する評価にするよう一層工夫することが求められる。なお、生徒の自己評価や相互評価は学習活動であり、それをそのまま学習評価とすることは適切ではないが、学習評価の参考資料として適切に活用することはできる。

また、特別活動においては、学級担任以外の教師や複数の教師で指導に当たる場合も多いことから、個々の生徒の活動状況について学級担任と担当する教員との間で情報交換をするとともに、評価に必要な資料が学級担任の手元に届き、活用されるようにすることが大切である。

3 評価補助簿の活用と指導要録の評価欄における記入について

活動の積み重ねによって、年間を通して生徒を育てようとする特別活動においては、全ての評価の観点について一連の学習過程の中で評価できるようにしたり、顕著な事項は補助簿等を活用して記録したりしておき、評価規準に基づきまとめて評価するなど、効果的で効率的な評価となるようにする。

各学期、年間、指導要録における特別活動の評価欄は、各学校で生徒による自己評価や相互評価、教師による評価などを蓄積し、総合的に判断し、各学校が自ら設定した観点を基に作成された評価規準を満たしているものを「十分満足できる活動の状況」と判断し、○印を記入する。「十分満足できる活動の状況」については、各学校で「生徒のどのような姿」を指すのかを検討し、共通理解を図っておく必要がある。

なお、特別活動における「十分満足できる活動の状況」の評価に当たっては、特別活動の特質を踏まえ、生徒のよさや可能性を積極的に評価することが大切である。

2学期制の学校では、評価の期間が長くなるので、前期・後期それぞれ中間での評価を行うなどして、生徒一人一人のよい点や進歩の状況が積極的に評価されるように工夫する。

評価補助簿の例

学級活動(3)										学級活動									
氏名	学期	教師の見取りによる評価						メモ					生徒氏名	(1)	(2)	(3)	指導要録		
		知	思	態															
学級活動(2)										学級活動									
氏名	学期	教師の見取りによる評価						メモ					生徒氏名	(1)	(2)	(3)	指導要録		
		知	思	態															
学級活動(1)										学級活動									
氏名	学期	教師の見取りによる評価						メモ					生徒氏名	(1)	(2)	(3)	指導要録		
		知	思	態															
A	1学期	○	○	○															
	2学期	○	○	○															
	3学期	○	○	○															
B	1学期	○	○	○															
	2学期	○	○	○															
	3学期	○	○	○															

友達の意見をしっかりと聞き、ともに協力して自主的に様々な問題を解決しようとする態度が見られた。

学級の問題について、意欲的に取組み、生かさせようという態度が

内容項目の重点化がある場合、この1つだけが○の場合でも指導要録を○とする場合が考えられる。例：学級活動(1)を重視している場合

生徒会対面式										生徒会対面式									
氏名	知	思	態																
委員会活動 ○○委員会										委員会活動 ○○委員会									
氏名	知	思	態																
1	A		○	○															
生徒会活動										生徒会活動									
氏名	委員会活動	生徒会対面式	3年生を送る会																
1	A	○	○																
学校行事										学校行事									
重点評価学校行事内容	儀式	文化	健康安全・体育	旅行・集団宿泊	勤労生産・奉仕														
重点評価行事項目	始業式・入学式	○○祭	持久走大会	修学旅行	校内奉仕作業														
評価の観点(○重点評価項目)	知	思	態	知	思	態	知	思	態	知	思	態	知	思	態				
1	A		○	○	○	○				○	○	○							
2	B			○	○								○						

○○祭では実行委員としてリーダーシップを発揮し、演劇コンクール朝日賞を受賞することができた。

入学式では最上級生として、真心込めて新入生を迎え入れる雰囲気をつくりだすことができた。

指導要録「特別活動の記録」

特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく、各学校が評価の観点を定める。特別活動の目標や学校として重点化した内容を踏まえ、具体的に観点を示す。

特別活動の記録						
内容	観点	学年	1	2	3	
学級活動	よりよい生活を築くための知識・技能 集団や社会の形成者としての思考・判断・ 表現		○	○		
生徒会活動	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度			○		
学校行事	余白			○		

「十分満足できる活動の状況」にあると判断される場合に、○印を記入する。
○印をつけた具体的な活動の状況等について、総合所見の欄に「特別活動における事実及び所見」として端的に記述することで評価の根拠を記録に残すことができる。

指導要録「総合所見及び指導上参考となる事項」への記入例

総合所見及び指導上参考となる諸事項	
第2学年	友達の意見をしっかりと聞き、ともに協力して自主的に様々な問題を解決しようとする態度が見られた。

「事実」の記入については、各活動、学校行事における所属する係名や委員会名、部活動名、分担した役割等を記入するが、事実だけでなくそれらの活動状況などについて集約して記入するとともに、以後の指導に特に必要とされる事項についても記入する。
○印が付かない場合であっても、生徒のよい点や進歩の状況などについて積極的に取り上げ、その具体的な事項について記入する。

4 特別活動の評価とキャリア・パスポートの活用

4-1 キャリア教育の充実と特別活動

4-1-1 キャリア・パスポートの必要性と背景

特別活動において育成すべき資質・能力を確実に育む観点から、キャリア教育の中核的な指導場面として特別活動が大きな役割を果たすことが期待されている。キャリア教育は、学校の教育活動全体を通して自らのキャリア形成のために必要な様々な汎用的能力を育てていくものである。

そこで、小学校から高等学校までの特別活動をはじめとしたキャリア教育に関わる活動において、学びのプロセスを記述し振り返ることができるポートフォリオ的な教材である「キャリア・パスポート」を作成し、活用することで効果的に生徒の資質・能力を育てていくものと考えられる。

特別活動を中心として各教科等と往還しながら活用することで、学びを蓄積し、それを将来につなぎ、必要に応じて振り返ることにより、主体的に学びに向かう力を育成し、自己のキャリア形成に生かすとともに、特別活動や各教科等における指導の改善に生かしていくことが大切である。

4-1-2 キャリア・パスポートの目的

小学校から高等学校を通じて、児童生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につながるものである。

教師にとっては、その記述をもとに対話的に関わることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するものである。

4-2 特別活動におけるキャリア・パスポートの活用

学級活動(3)の授業の際に意思決定したことを書き込むカードなどについて、実践を振り返り、努力の状況や成果と課題などを一体にして記録ができるようにし、「キャリア・パスポート」として蓄積できるようにすることも考えられる。また、「キャリア・パスポート」の生徒の記述から、取組の過程や状況を見取り、生徒理解を深めたり、学習評価の参考にしたりすることも考えられる。なお、「キャリア・パスポート」は生徒の学習活動（自己評価や相互評価）であり、それをそのまま学習評価とすることは適切ではないが、学習評価の参考資料として適切に活用することにより、生徒の学習意欲の向上につながることもできる。

【キャリア・パスポートの活用例】

1年間をふりかえってみましょう

★ **なりたい自分に近づけたことを書きましょう。**

学習・生活・家庭・地域・習い事・好きなこと
学習面では、家庭学習に力を入れて予習・復習をしたことで授業に積極的に参加できた。苦手科目もがんばれた。継続する力も身につけられたと思っている。
家庭生活では、家のお手伝いをがんばった。毎日、お風呂洗いができた。家族から「いつもありがとう」といわれると、なんだかうれしくなった。みんなのために頑張れる力がついたと思う。

★ **なりたい自分に近づききっかけとなった行事やできごとと理由を書きましょう。**

合宿です。バート練習がうまくできなかった時に、みんなで決断点を話し合おうと提案ができました。お互いの気持ちが感じ合えるきっかけになったし、私もみんなのことを考えて行動することの大切さを実感できたからです。

★ **3年生としてがんばったことと学年のためにがんばったことを書きましょう。**

美化委員会です。3年生として1、2年生のためにも学校のためになる「びっぴか大作戦」を考え、実行しました。また普段の学校生活の中でも廊下にごみが落ちていたら率先して拾いました。これは学年のためにもなっていたと思います。

★ **小・中学校9年間の「私の志ノート」を読み返して、自分自身を振り返り、3年後の自分への応援メッセージを書きましょう。**

小学生のころや中学校1年生の時は、まだまだ自分のことしか考えていませんでした。中学2年生ごろから、クラスや学校のことが考えられるようになり、実際にクラスや学年、学校全体のことを思って行動ができるようになりました。私は3年後に18歳になっています。そのころには私の住む地域のことを思って行動ができるようになってほしいです。がんばれ！私。

★ **「1年間をふりかえりましょう（中学校）」と「キャリア・パスポート（高等学校進出用）」にも記入しましょう。**

担任の先生から 保護者などから

「担任の先生から」を教員が記入する。また、「保護者などから」は、保護者等に記入してもらうよう協力を依頼する。

【事前の活動】
事前に記入することで、学習意欲を高めたり、よりよい話し合いや意思決定につながったりすることも考えられる。

【本時の活動】
例えば、学級活動(3)の授業において、これまでに記入し蓄積してきたキャリア・パスポートを基に、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりすることも考えられる。また、意思決定した内容をキャリア・パスポートに記入することも考えられる。
※学級活動(3)の特質から、キャリア・パスポートに記入したりまとめるだけの時間としないようにする。

【事後の活動、事後の記入（担任等、保護者等）】
事後の指導として、生徒が実践を振り返る機会を設定し、継続した実践になるようにしたり、必要に応じて新たに目標を立てて取り組んだりすることができるように助言する。そうすることで、生徒一人一人が実践意欲を継続させるとともに、今後の生活の仕方を意識することができる。

年間の学級活動におけるキャリア・パスポートの活用例（第1学年）

指導目標	目標の資質・能力を育成するため、全ての学年において、各活動を通して、それぞれの活動の意義及び活動を行う上で必要となることについて理解し、主体的に考えて実践できるようにする。				
学級活動の内容	(1) 学級や学校における生活づくりへの参画	月	(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全	(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現	主な生徒会 学校行事の 予定
			(2)(3)は合わせて15時間		
○予想される議題例 ★キャリア・パスポート活用時の留意点		題材 (内容)	○指導上のねらい ・指導上の留意点 ★キャリア・パスポート活用時の留意点	題材 (内容)	○指導上のねらい ・指導上の留意点 ★キャリア・パスポート活用時の留意点
<p>【1学期の議題例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進級お祝いの会をしよう ○係活動を充実させよう ○当番活動の工夫を考えよう ○遠足のバスレクを考えよう ○学級がもっと仲良くなるための活動計画を立てよう ○体育祭の活動計画を立てよう ○1学期まとめの会の計画を立てよう <p>★学校行事等で活用し、振り返りを行うことで自分自身の成長を実感させる工夫をする。</p> <p>★生徒一人一人が自分のよさに気付けるよう、生徒の成長の過程を積極的に認め、具体的に称賛する。</p>		望ましい人間関係の在り方(ア)	○中学生としての自覚を深めるとともに、よりよい人間関係づくりができるようにする。 ・1年生の生活の様子を紹介し、具体的な目標が立てられるようにする。 ★生徒の姿が見られた際には、当該生徒に伝えたり、学級や学年、学校全体で紹介したりすることも考えられる。	自ら学ぶ意義や方法(ア)	○学ぶことの大切さを将来の生き方とも関連させ、主体的に学ぶ意欲を高められるようにする。 ・1年生の学習内容を示したり、先輩からのアドバイス等を示したりする。 ★小学校で記入したキャリア・パスポートで、これまでの成長について確認することも考えられる。 ★個人目標をキャリア・パスポートに記入することも考えられる。
		楽しい給食と配膳の方法(オ)	○給食の意義を理解し、楽しい給食の在り方や能率的、衛生的な配膳方法を考えられるようにする。 ・実際の給食場面を想起できるように、写真や動画を用意する。	家庭学習の内容と方法(ア)	○テストの意義と関連させ、学習計画の立て方や効果的な家庭学習の方法を考えられるようにする。 ・具体的な学習方法が考えられるように経験に基づいた話し合いを取り入れる。
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 20px; width: fit-content; margin: 20px auto;"> 生徒のよさや進歩の状況の捉え方について、教師間で共通理解を図れるようにしておく。 </div>		自他の理解と尊重(ア)	○自分の個性を見つめ、大切にし、理解するとともに他者の個性を理解し尊重できるようにする。 ・自他のよさを理解できるよう実際の場面を想起した話し合いを取り入れる。 ★自分のよさについてこれまでに書いたキャリア・パスポートで振り返るとともに、今の自分のよさについて記入できるようにする。	働く目的と意義(イ)	○働く意義や尊さを考えることができるようにする。 ・働くことへの具体的なイメージがもてるよう身近な人々の職業について調査・発表を取り入れる。 ★小学校で書いた自分のなりたい職業についてキャリア・パスポートで振り返る。

留意事項

<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事における体験活動を通して自分自身について考えたことを、学級活動(3)の学習と関連付けるなど指導を工夫する。 ○日常生活の記録や学習の振り返り、学級活動や学校行事等で記載した資料を参考に、学校で指定したキャリア・パスポートにまとめていく。 ○A4(5枚以内)を次の学年につなげていくため、学級ごとに適切に保管する。
